

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名:H24-D1-5

コア観察カード		適正化すべき記事内容				報告書柱状図記事		コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
記事	記事	記事	記事	記事	記事	記事			
上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度	上端深度 下端深度			
	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 (変更箇所を赤字で表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>		記事 選定した記事内容				
1	-	-	0.00	7.41	盛土	0.00	7.41	0.00~7.41m:盛土	
2	0.00	3.00	0.00	3.00	粗砂 ルーズな粗砂からなる埋戻し土。1m以浅でφ10~40mmのGp岩片、コンクリート片などを含む。	0.00	3.00	0.00~3.00m:粗砂 ルーズな粗砂からなる。径10~40mmの花崗斑岩、黒色砂岩などの礫を含む。	
3	0.00	3.00	0.00	3.00	(地質名欄)粗砂	0.00	3.00	(地質名欄)盛土	
4	3.00	7.41	3.00	7.41	砂礫 砂礫からなる改良土で、粗砂の基質は比較的良好で、7.00~7.20mはルーズな均質な中砂。φ2~5mmの石英粒、長石粒とφ5~120mmのGp主体の礫で、少量のGr、砕石片を含む。礫は硬質主体で一部半クサリで、垂角礫~垂円礫である。礫含有率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と低下している。	3.00	7.41	3.00~7.41m:砂礫 砂礫からなる。径2~5mmの石英粒、長石粒と径5~120mmの花崗斑岩の礫主体で、少量の黒雲母花崗岩、黒色砂岩を含む。硬質礫主体の垂角~垂円礫で、一部半クサリ礫を含む。礫率は30~40%で、7.20~7.41mは20%と少ない。基質は粗砂で比較的良好で締まっている。7.00~7.20mはルーズで均質な中砂からなる。	
5	3.00	7.41	3.00	7.41	(地質名欄)砂礫	3.00	7.41	(地質名欄)盛土	
6	7.41	7.41	-	-	著岩	-	-	-	下記に花崗斑岩の区間を示しているため着岩の記載はしない
7	-	-	7.41	54.00	花崗斑岩 φ1~10mm石英、長石の斑晶からなる花崗斑岩(Gp)	7.41	54.00	7.41~54.00m:花崗斑岩 径1~10mmの石英、長石の斑晶を5~15%程度含む。19m以深は斑晶の量が少なくアプライト様を呈する部分もある。	
8	7.41	8.51	7.41	8.51	風化で著しく軟化するが、岩組織はほぼ残留、割れ目は一部は消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。長石斑晶は全て粘土化で白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土脈は殆ど分布しない。割れ目は30~50°主体で、割れ目周辺5~10mmは褐色化することが多い。	7.41	8.51	7.41~8.51m:風化で著しく軟化するが、原岩組織はほぼ残留、割れ目は一部で消滅~消滅しかかるものもあるが、残留するものが多い。傾斜30~50°の割れ目が主体で、割れ目周辺の幅5~10mmが褐色化することが多い。長石斑晶は粘土化して白濁化するが、これ以外では粘土化や粘土脈は殆んど分布しない。上端には幅1cm程度のモルタルが付着する。	
9	7.45	7.45	7.45	7.45	40°割れ目はせん断性割れ目で、交差する53°、幅2mmの石英脈を切っている(変位量5mm右ズレ)	7.45	7.45	7.45m:傾斜40°の割れ目は、交差する傾斜53°で幅2mmの石英脈を止めている。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
10	-	-	7.89	7.89	-	7.89	7.89	7.89m:傾斜50°の割れ目に幅1~3mm程度のマンガンを含み、割れ目周辺は幅3~5mm程度で緑色化している。	
11	-	-	8.03	8.08	-	8.03	8.08	8.03~8.08m:マンガン汚染が顕著で、径2~10mmの岩片を15~20%程度含む。	
12	8.48	8.48	8.48	8.48	45°で幅5~10mmが緑灰色化(緑泥石化)。粘土化は伴わない。	8.48	8.48	8.48m:傾斜45°で幅5~10mmが緑泥石化により緑灰色化する。粘土化は伴わない。	

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5			コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <div style="text-align: center;">☑</div>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <div style="text-align: center;">☑</div>								
13	8.51	8.71		8.51	8.71		8.51	8.71				●8.51～8.71m: 破砕部 8.51～8.66m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°でほぼ直線的にシャープに。下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。φ5mm前後の組織が消滅した軟質化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟質な淡黄色(2.5Y8/3)粘土脈からなり粘土混じり岩片状を呈する。8.51～8.54mは粘土量が増えている。色調は、淡黄～にぶい橙(7.5Y6/4)で、厚さは140mm(コア長)	●8.51～8.71m: 破砕部 8.51～8.66m: 粘土混じり岩片状部(Hj) 上端55°でほぼ直線的にシャープに。下端50°でやや不明瞭に波打ちながら連続。径5mm前後の原岩組織が消滅した軟質化～粘土化岩片と、岩片間を網状に分布する幅1～2mmの軟質な淡黄色粘土脈からなる。8.51～8.54mは粘土分が多い。淡黄～にぶい黄橙色を呈する。幅25～30mm。 8.66～8.69m: 粘土質礫状部(Hb) 上端50°でやや不明瞭に。下端60°でやや波打って連続。径2～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅25～30mm。 8.69～8.70m: 粘土状部(Hc-1) 上端60°でやや波打ち、下端60°で直線的に連続。径1mm以下の石英粒を少量含む。軟質。明赤灰色を呈する。幅3～8mm。 8.70～8.71m: 粘土質礫状部(Hb) 上端60°で直線的に。下端65°でほぼ直線的にシャープに連続。径1～2mmの石英粒と径3～5mmの粘土化した花崗斑岩の岩片からなる。軟質。にぶい黄橙色を呈する。幅3～10mm。
14	8.51	8.66		8.51	8.66		8.51	8.66					
15	8.66	8.69		8.66	8.69		8.66	8.69	8.51	8.71			
16	8.69	8.70		8.69	8.70		8.69	8.70					
17	8.70	8.71		8.70	8.71		8.70	8.71					
18	8.71	10.19		8.71	10.19		8.71	10.19	8.71	10.19			

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
19	10.19	10.21	破砕帯(H-3d破砕帯)	10.19	10.21	破砕帯(H-3d破砕帯)			●10.19~10.21m:破砕部 10.19~10.20m:粘土質礫状部(Hb) 上端27°で直線的にシヤープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化したGp岩片を含む礫質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟弱である。厚さは6~10mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
20	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシヤープに、下端はやや波打って連続。φ1~3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片を含む礫質粘土で、粘土は灰白色を呈し軟弱である。厚さは6~10mm。	10.19	10.20	Hb 上端27°、下端36°で、上端は直線的でシヤープに、下端はやや波打って連続。φ1~3mm石英粒とφ5mm前後の粘土化したGp岩片を含む礫質粘土状部で、粘土は灰白色を呈し軟弱である。厚さは6~10mm。 含まれる細粒部は網目状に分布し、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織が見られる。	10.19	10.21	●10.19~10.21m:破砕部 10.19~10.20m:粘土質礫状部(Hb) 上端27°で直線的にシヤープに、下端36°でやや波打って連続。径1~3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6~10mm。 10.20~10.21m:粘土状部(Hc-1) 上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシヤープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白~上部側でにぶい黄色を呈する。幅4~6mm。	
21	10.20	10.21	Hc-1(主せん断面・10.21m) 上端36°、下端40°で、上端は波打って、下端は直線的でシヤープに連続する。下端が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部側のにぶい黄色(2.5Y6/3)の軟弱な粘土である。厚さは4~6mm。	10.20	10.21	Hc-1(最新活動面・10.21m) 上端36°、下端40°で、上端はやや波打って、下端は直線的でシヤープに連続する。下端が主せん断面である。φ1mm前後の石英粒を若干含む灰白(2.5Y8/2)~上部側のにぶい黄色(2.5Y6/3)の軟弱な粘土である。厚さは4~6mm。 原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
22	10.21	10.45	著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残存し、幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m・65°割れ目以下では色調が上位のにぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さDも多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m・65°割れ目には幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟み、上盤側約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	著しく軟化する硬さEが主体で、消滅した割れ目が多いが、60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残存し、幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。10.37m・65°割れ目以下では色調が上位のにぶい橙から橙に変化し、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。10.37m・65°割れ目には幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟み、上盤側約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	10.21	10.45	10.21~10.45m:消滅した割れ目が多いが、傾斜60~70°の割れ目と低密着割れ目の一部が残存し、幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟むことが多い。 10.37m:傾斜65°の割れ目を境に色調がにぶい橙から橙に変わり、岩片も硬さDが多くなり、粘土脈は分布しなくなる。割れ目には幅0.5~1mmの軟弱な白色粘土脈を挟み、上盤側約5mmがマンガン鉱染により黒褐色化する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
23	10.45	10.50	破砕帯(H-4'破砕帯)	10.45	10.50	破砕帯(H-4'破砕帯)			●10.45~10.50m:破砕部 10.45m:粘土状部(Hc-1) 傾斜30°で直線的にシヤープに連続する幅1mm以下の軟弱な白色粘土。 10.45~10.50m:粘土質礫状部(Hb) 上端30°で直線的にシヤープに、下端40°で一部で大きく波打ちながら連続。径1~2mmの石英粒と長さ10~20mm、幅5~10mmの扁平化した花崗斑岩の礫を多く含む。軟質。灰白~にぶい黄色を呈する。幅40~45mm。	・硬軟、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織の有無、境界面や細粒部の連続性・直線性、最新活動面の記載は別資料で示すこととし、柱状図には記載しない。
24	10.45	10.45	Hc-1(主せん断面) 30°で直線的でシヤープに連続する厚さ1mm以下の軟弱な白色粘土で主せん断面である。	10.45	10.45	Hc-1(最新活動面) 30°で直線的でシヤープに連続する厚さ1mm以下の軟弱な白色粘土。主せん断面である。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られない。				
25	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシヤープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒と、φ5~10mm~長さ10~20mm・幅5~10mmの扁平化したGp礫を多く含む軟弱な礫質粘土で灰白色(7.5YR8/2)~にぶい橙(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。	10.45	10.50	Hb 上端30°、下端40°で、上端は直線的でシヤープに、下端は一部で大きく波打ちながら連続する。φ1~2mm石英粒と、φ5~10mm~長さ10~20mm・幅5~10mmの扁平化したGp礫を多く含む軟弱な粘土質礫状部で灰白色(7.5YR8/2)~にぶい橙(7.5YR7/4)を呈する。厚さは40~45mm。 含まれる細粒部は網目状に分布。原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織は見られる。	10.45	10.50		
26	10.50	10.90	(コアの形状欄)VIランク	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	10.50	10.98	(コアの形状欄)Vランク	-
27	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Eランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Dランク	10.50	11.02	(コアの硬さ欄)Dランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
28	10.51	12.00	硬さDで軟質であるが岩組織と割れ目は明瞭に残留している。割れ目は40~60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5mm前後の白色軟弱粘土脈をはさむことが多い。	10.50	12.00	硬さDでやや軟質であるが原岩組織と割れ目は明瞭に残留している。割れ目は40~60°がほぼ平行に分布する(破砕帯と同方向)。割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5mm前後の白色軟質粘土脈を挟むことが多い。	10.50	12.00	10.50~12.00m: 原岩組織と割れ目は明瞭に残留する。傾斜40~60°の割れ目が破砕部とほぼ平行に分布する。割れ目ぞいに砂状化し、幅0.5mm前後の軟質白色粘土脈を挟むことが多い。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
29	10.98	11.20	(コアの形状欄) Vランク	10.98	11.20	(コアの形状欄) VIランク	10.98	11.20	(コアの形状欄) VIランク	-
30	11.02	11.20	(コアの硬さ欄) Dランク	11.02	11.20	(コアの硬さ欄) Cランク	11.02	11.20	(コアの硬さ欄) Cランク	-
31	11.63	12.00	(コアの硬さ欄) Dランク	11.63	12.00	(コアの硬さ欄) Cランク	11.63	12.00	(コアの硬さ欄) Cランク	-
32	11.90	11.95	45~50°割れ目ぞいにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	11.10	11.95	11.10~11.11m, 11.90~11.95mに45~90°割れ目沿いにマンガン鉱染受け、黒褐色化する。	11.10	11.95	11.10~11.11m, 11.90~11.95m: 傾斜45~90°の割れ目沿いにマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-
33	12.00	12.61	50~60°が数本分布するのみである。ただし、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	12.00	12.61	50~60°の割れ目が数本分布するのみである。ただし、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	12.00	12.61	12.00~12.61m: 傾斜50~60°の割れ目が数本分布するのみであるが、不規則状に低密着割れ目を含んでおり、打撃で5cm前後の岩片に砕け易い。割れ目ぞいの砂状化や粘土脈の挟在は少ない。	-
34	12.18	12.61	(割れ目状態欄) cランク	12.18	12.61	(割れ目状態欄) bランク	12.18	12.61	(割れ目状態欄) bランク	-
35	12.61	14.19	40~60°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°割れ目も多い。13.86~14.19mには80~85°割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	12.61	14.19	40~80°割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°割れ目も多い。13.86~14.19mには80~85°割れ目2本が連続し、他割れ目交差部では砂状化~φ5~10mm細片化する。粘土脈は挟まない。	12.61	14.19	12.61~14.19m: 傾斜40~90°の割れ目が主体で、これらに斜交~直交する20~40°の割れ目も多い。13.86~14.19mには傾斜80~85°の2本の割れ目が連続し、他の割れ目との交差部では砂状化~径5~10mmに細片化する。粘土脈は挟まない。	-
36	14.19	16.18	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。割れ目は酸化で褐色化するが、砂や粘土などの挟在物はない。割れ目は50°以下が多い。15.53~15.92mは風化で表面が褐色化(にぶい褐色7.5YR5/3)するが、堅硬で劣化はない。15.40~15.65mに10~30°の、15.10~15.40mに85~90°のいずれも低密着割れ目が分布する。	-	-	-	14.19	16.18	14.19~16.18m: 割れ目は傾斜50°以下が多く、割れ目は酸化で褐色化するが、砂や粘土などの挟在物はない。15.53~15.92mは風化で表面が褐色化するが、劣化はない。15.40~15.65mに傾斜10~30°の、15.10~15.40mに傾斜85~90°の低密着割れ目が分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さ、割れ目の多寡、色調の情報は記載しない
37	14.19	14.72	(割れ目状態欄) bランク (岩級区分欄) CH	14.19	14.72	(割れ目状態欄) cランク (岩級区分欄) CM	14.19	14.72	(割れ目状態欄) cランク (岩級区分欄) CM	-
38	15.00	15.30	(コアの形状欄) IIIランク	15.00	15.30	(コアの形状欄) IIランク	15.00	15.30	(コアの形状欄) IIランク	-
39	15.53	15.92	(色調欄) 7.5YR5/1褐色	15.53	15.92	(色調欄) 7.5YR5/3にぶい褐色	15.53	15.92	(色調欄) にぶい褐色	-
40	15.70	15.92	(コアの形状欄) IIIランク	15.70	15.92	(コアの形状欄) IIランク	15.70	15.92	(コアの形状欄) IIランク	-
41	16.18	16.72	上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。50~60°割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。	16.18	16.72	上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。50~60°割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。	16.18	16.72	16.18~16.72m: 上位より若干風化が進み、割れ目ぞいの一部やコア表面の一部が砂状化する。傾斜50~60°の割れ目が主体である。粘土脈は挟まない。	-
42	16.10	16.72	(割れ目状態欄) cランク	16.18	16.72	(割れ目状態欄) bランク	16.18	16.72	(割れ目状態欄) bランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
43	16.18	17.14	(岩級区分欄)CL	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM	16.18	17.14	(岩級区分欄)CM	-
44	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40~50°割れ目が平行に分布し、割れ目ごいの砂状化はなく、粘土脈も挟まれない。 17.07m・50°幅1~2mmでやや湾曲しながら石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が晶出している。	16.72	17.14	硬さBと堅硬で、割れ目も少ない。40~50°割れ目が平行に分布し、割れ目ごいの砂状化はなく、粘土脈も挟まれない。 17.07m・50°幅1~2mmでやや湾曲しながら石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmと微細な金属鉱物が晶出している。	16.72	17.14	16.72~17.14m:傾斜40~50°の割れ目が平行に分布し、割れ目ごいの砂状化はなく、粘土脈も挟まれない。17.07mに傾斜50°で幅1~2mmのやや湾曲した石英脈が母岩に密着して連続する。母岩との境界部にわずかにφ0.1mmの微細な金属鉱物が晶出する。	・記事欄以外から読み取れる硬さや割れ目の多寡の情報は記載しない
45	17.14	18.17	上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化~φ3mm前後で細片化する。粘土脈の挟在は少ない。割れ目は30~50°が主体で一部でこれらに斜交~直交する50~70°割れ目も分布する。 18.05~18.09m、割れ目の褐色化進む。	-	-	-	17.14	18.17	17.14~18.17m:上位よりも若干風化が進み、割れ目の一部で砂状化~径3mm前後で細片化する。粘土脈の挟在は少ない。傾斜30~50°の割れ目が主体で、一部でこれらに斜交~直交する50~70°の割れ目も分布する。18.05~18.09m間は割れ目の褐色化が進む。	-
46	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40~50°割れ目~低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部は砂状化~φ5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28m・35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	風化で軟質化している。割れ目は一部で消滅するが、40~50°割れ目~低密着割れ目の一部が残留している。割れ目の一部は砂状化~φ5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28m・35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mm軟質な白色粘土が分布するのみで、他割れ目には分布しない。	18.17	18.64	18.17~18.64m:風化で軟質化する。割れ目は一部で消滅するが、傾斜40~50°の割れ目や低密着割れ目の一部が残留する。割れ目の一部は砂状化~径5mm前後に細片化する。粘土脈は18.28mの傾斜35°の消滅しかかった割れ目に幅0.5mmで軟質な白色粘土が分布するのみで、他の割れ目には分布しない。	-
47	18.64	18.78	18.72m・35°、幅3~4mmの軟質な灰赤色(2.5VR6/2)粘土脈が直線的でシャープに連続。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土脈が平行に分布し、全体が著しく軟化している。	18.64	18.78	18.72m・35°、幅3~4mmの軟質な灰赤色(2.5VR6/2)粘土脈が直線的でシャープに連続。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土脈が平行に分布し、全体が著しく軟化している。	18.64	18.78	18.64~18.78m:18.72mに傾斜35°で幅3~4mmの軟質な灰赤色粘土脈が直線的でシャープに連続する。その上下端側には幅0.5mm以下の軟質な白色粘土脈が平行に分布する。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
48	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40~60°割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土脈もはさまれない。	18.78	19.11	風化で軟質化している。風化で、割れ目の一部は消滅するが、40~60°割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土脈も挟まれない。	18.78	19.11	18.78~19.11m:風化で軟質化し、割れ目の一部は消滅するが、傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が残留する。割れ目の一部は砂状化するが、粘土化部は分布せず、粘土脈も挟まれない。18.90~19.03m間は周辺よりやや硬質である。	-
49	18.90	19.03	硬さCの岩片が分布する。	-	-	-	-	-	-	・上記の記事に含めたため記載しない
50	19.11	20.10	40~60°割れ目が主体で、一部で、これらに10~30°で斜交~直交する。19.67m以浅は硬さC、19.67m以深は硬さBと堅硬となる。硬さBも含め、割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	-	-	-	19.11	20.10	19.11~20.10m:傾斜40~60°の割れ目が主体で、一部で、これらに斜交~直交する10~30°の割れ目が見られる。割れ目の一部は薄く砂状化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	・記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
51	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mm長石などからなるペグマタイト質部で、幅約100mm、65°で分布。	19.56	19.67	最大径φ25mm石英、φ20mmカリ長石などからなるペグマタイト質部で、幅約100mm、65°で分布。	19.56	19.67	19.56~19.67m:ペグマタイト傾斜65°で幅約100mm。最大径25mmの石英、径20mmのカリ長石などからなる。	-
52	19.66	19.66	58°はせん断性割れ目で、交差する10°割れ目を切り(変位量2mm左ズレ)、ペグマタイトの石英斑晶を切断している。	19.66	19.66	58°のせん断性割れ目は連続せず、交差する10°割れ目を横断している。を切り(変位量2mm左ズレ)、ペグマタイトの石英斑晶を切断している。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	19.66	19.66	19.66m:傾斜58°の割れ目は連続せず、交差する傾斜10°の割れ目を横断する。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
53	19.97	19.97	80°、幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-	19.97	19.97	19.97m:傾斜80°で幅0.5~1mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
54	20.10	20.46	40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟在は殆んどない。	-	-	-	20.10	20.46	20.10~20.46m:傾斜40~60°の割れ目と低密着割れ目が概ね1~3cm間隔で平行に分布する。一部で薄く砂状化するが、粘土脈の挟在は殆んどない。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
55	20.11	20.11	60° 割れ目はマンガン鉱染を受け黒褐色化する。	-	-	-	20.11	20.11	20.11m: 傾斜60° の割れ目はマンガン鉱染を受け、黒褐色化する。	-
56	20.46	20.85	一部に硬さBの堅硬部も含むが、硬さCが主体。50~60° 割れ目主体で、割れ目ぞいの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟弱な白色~浅黄色(2.5Y7/3)粘土脈はさむことが多い。	20.46	20.85	一部に硬さBの堅硬部も含むが、硬さCが主体。50~60° 割れ目主体で、割れ目ぞいの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟弱な白色~浅黄色(2.5Y7/3)粘土脈を挟むことが多い。	20.46	20.85	20.46~20.85m: 一部に硬質部も含むが、全体にやや硬質である。傾斜50~60° の割れ目が主体で、割れ目ぞいの砂状化は殆んどないが、幅1~2mmの軟弱な白~浅黄色の粘土脈を挟むことが多い。	-
57	20.65	20.80	20.65m~20.80m間の割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-	-	-	20.65	20.80	20.65m~20.80m: 割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
58	20.85	21.43	硬さBで堅硬。20~30° とこれに斜交する50~60° 割れ目が主体で、一部で同角の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物はない。	20.85	21.43	硬さDで堅硬。20~30° とこれに斜交する50~60° 割れ目が主体で、一部で同角度の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが劣化なし。割れ目挟在物はない。	20.85	21.43	20.85~21.43m: 傾斜20~30° とこれに斜交する50~60° の割れ目が主体で、一部で同傾斜の低密着割れ目も分布する。一部のコア表面は褐色化するが、劣化はない。割れ目の挟在物も見られない。	*記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
59	21.06	21.15	21.06m・30° と21.15m・50° の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化。	-	-	-	21.06	21.15	21.06m・30° と21.15m・50° の各割れ目はマンガン鉱染で黒褐色化する。	-
60	21.33	21.33	60° はせん断性割れ目で、交差する20° 割れ目を切っている(変位量8mm右ズレ)	21.33	21.33	60° のせん断性割れ目は、交差する20° 割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断している。を切っている(変位量8mm右ズレ)割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	21.33	21.33	21.33m: 傾斜60° の割れ目は、交差する傾斜20° の割れ目及び21.36mの褐色化した割れ目を横断する。割れ目には挟在物が認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
61	21.43	21.50	20~30° と50~60° 割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟化する。幅0.5mmの白色軟弱粘土がわずかに付着する。	21.43	21.50	20~30° と50~60° 割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟化する。幅0.5mmの白色軟弱粘土がわずかに付着する。	21.43	21.50	21.43~21.50m: 傾斜20~30° と50~60° の割れ目が5~10mm間隔で交差し全体が軟化する。幅0.5mmの軟弱な白色粘土がわずかに付着する。	-
62	21.43	21.50	(割れ目状態欄)cランク (コアの形状欄)Vランク (コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク	21.43	21.50	(割れ目状態欄)bランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク	21.43	21.50	(割れ目状態欄)bランク (コアの形状欄)IVランク (コアの硬さ欄)Bランク (風化欄)γランク	-
63	21.50	21.81	割れ目なくわずかに低密着割れ目を含む。	-	-	-	21.50	21.81	21.50~21.81m: わずかに低密着割れ目が分布する。	-
64	21.50	21.81	(コアの形状欄)IIIランク	21.50	21.81	(コアの形状欄)IIランク	21.50	21.81	(コアの形状欄)IIランク	-
65	21.81	22.43	10~40° とこれに斜交する40~60° 割れ目が主体。22.10m・70° ではごく薄く砂状化。22.36m・50° には幅1~2mmの軟弱な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	21.81	22.43	10~40° とこれに斜交する40~60° 割れ目が主体。22.10m・70° ではごく薄く砂状化。22.36m・50° には幅1~2mmの軟弱な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	21.81	22.43	21.81~22.43m: 傾斜10~40° とこれに斜交する40~60° の割れ目が主体で、22.10mの傾斜70° の割れ目は薄く砂状化し、22.36mの傾斜50° の割れ目には幅1~2mmの軟弱な白色粘土などの挟在物が分布するが、全体的には割れ目に挟在物は分布しない。	-
66	-	-	-	22.28	22.28	傾斜80°、幅2~3mmでカリ長石の濃集部が脈状に分布。	22.28	22.28	22.28m: 傾斜80° で幅2~3mmのカリ長石の濃集部の脈が分布する。	-
67	22.43	22.91	45° 前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20° 割れ目と低密着割れ目が分布する。	-	-	-	22.43	22.91	22.43~22.91m: 傾斜45° 前後の割れ目が主体で、一部これに斜交する10~20° の割れ目と低密着割れ目が分布する。	-
68	22.43	22.91	(コアの形状欄)IIIランク (岩級区分欄)CH	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	22.43	22.91	(コアの形状欄)IVランク (岩級区分欄)CM	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示) 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
69	22.52	22.55	15~20° 割れ目ぞいφ10mm前後で細片化。	22.52	22.55	15~20° 割れ目ぞいφ10mm前後で細片化。	22.52	22.55	22.52~22.55m: 傾斜15~20° の割れ目ぞいが径10mm前後で細片化する。	-
70	22.56	22.56	58° 幅1mm石英脈が母岩に密着して連続する。	-	-	-	22.56	22.56	22.56m: 傾斜58° で幅1mmの石英脈が母岩に密着して分布する。	-
71	22.81	22.91	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部をはさむ。	22.81	22.91	割れ目、低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	22.81	22.91	22.81~22.91m: 割れ目や低密着割れ目にごく薄く砂状部を挟む。	-
72	22.91	22.94	(割れ目状態欄) dランク (コアの形状欄) VIランク (コアの硬さ欄) Eランク (風化欄) δ ランク (岩級区分欄) CH	22.91	22.94	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Bランク (風化欄) γ ランク (岩級区分欄) CM	22.91	22.94	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Bランク (風化欄) γ ランク (岩級区分欄) CM	-
73	22.91	22.94	50~55° 割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状~細片状化。粘土は殆んど含まない(わずかに幅1mm・長さ20mmで軟弱な白色粘土が分布)	22.91	22.94	50~55° 割れ目に囲まれ幅20mmが風化で砂状~細片状化。粘土は殆んど含まない(わずかに幅1mm・長さ20mmで軟弱な白色粘土が分布)	22.91	22.94	22.91~22.94m: 傾斜50~55° の割れ目に囲まれ、幅20mmが風化で砂状~細片化する。わずかに幅1mm・長さ20mmの軟弱な白色粘土が分布する。	-
74	23.04	23.60	堅硬で割れ目が少ない(Ⅲ)。20~30° とこれにほぼ直交する50~60° 割れ目からなり、割れ目挟在物はない。	22.94	23.60	堅硬で割れ目が少ない(Ⅲ)。20~30° とこれにほぼ直交する50~60° 割れ目が分布し、割れ目挟在物はない。	22.94	23.60	22.94~23.60m: 傾斜20~30° とこれにほぼ直交する50~60° の割れ目が分布し、割れ目の挟在物はない。	記事欄以外から読み取れる硬さやコア形状の情報は記載しない
75	23.45	-	23.45m以深でコア表面は風化でにぶい橙色を帯びる。	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で縞状ににぶい橙色を帯びる。	23.45	-	23.45m以深はコア表面は風化で縞状ににぶい橙色を帯びる。	-
76	23.60	23.96	全体が風化でにぶい橙色を帯びるが、劣化はない。30~45° とこれに斜交~直交する50° 割れ目からなる。 (以下は24m以深のコアで書き加える)	23.60	23.96	全体が風化でにぶい橙色を帯びるが、劣化はない。30~45° とこれに斜交~直交する50° 割れ目が分布する。 (以下は24m以深のコアで書き加える)	23.60	23.96	23.60~23.96m: 傾斜30~45° と、これに斜交~直交する50° の割れ目が分布する。	風化による褐色化は上記で記載しているため記載しない
77	23.96	24.47	割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに40~50° 割れ目計3本が主体で、割れ目には挟在物は分布しない。	-	-	-	23.96	24.47	23.96~24.47m: 割れ目が少なく、上端、下端と24.26mに傾斜40~50° の割れ目計3本見られる。割れ目には挟在物は分布しない。	-
78	24.47	25.80	岩片は硬さB堅硬であるが、30~50° の割れ目、低密着割れ目が10~60mm間隔でほぼ平行に分布する。	24.47	25.80	岩片は硬さB堅硬であるが、30~50° の割れ目、低密着割れ目が10~60mm間隔でほぼ平行に分布する。	24.47	25.80	24.47~25.80m: 傾斜30~50° の割れ目や低密着割れ目が1~6cm間隔でほぼ平行に分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
79	25.30	25.32	砂状~φ5mm細片化する以外は、割れ目には殆んど挟在物は分布しない。	25.30	25.32	傾斜45° で幅10mm程度が砂状~φ5mm細片化する以外は、割れ目には殆んど挟在物は分布しない。	25.30	25.32	25.30~25.32m: 傾斜45° で幅10mm程度が砂状~φ5mmに細片化する。	-
80	25.46	25.69	(割れ目状態欄) bランク (コアの形状欄) IVランク	25.46	25.69	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク	25.46	25.69	(割れ目状態欄) cランク (コアの形状欄) Vランク	-
81	25.80	26.95	30~50° 割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行で、10~15cm間隔主体で分布する。一部でこれら30~50° 割れ目と斜交~直交する10~50° 割れ目も分布し、26.41m~26.47mで同系の割れ目が交差し、φ20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化は伴わない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	25.80	26.95	30~50° 割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行で、10~15cm間隔主体で分布する。一部でこれら30~50° 割れ目と斜交~直交する10~50° 割れ目も分布し、26.41m~26.47mで同系の割れ目が交差し、φ20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化は伴わない。また、割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	25.80	26.95	25.80~26.95m: 傾斜30~50° の割れ目とわずかな低密着割れ目がほぼ平行に10~15cm間隔が主体で分布する。一部でこれらと斜交~直交する10~50° の割れ目も分布し、26.41m~26.47mでは同系統の割れ目が交差し、径20~30mmの硬質岩片に細片化するが、砂~粘土化は伴わない。割れ目やコア表面の一部は風化で褐色化するが、劣化は伴わない。	-
82	26.13	26.37	(コアの形状欄) IIIランク	26.13	26.37	(コアの形状欄) IVランク	26.13	26.37	(コアの形状欄) IVランク	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	記事 選定した記事内容	
			コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
83	26.95	27.20	割れ目間隔3~10cmとやや割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず、硬さBと堅硬である。	26.95	27.20	割れ目間隔3~10cmとやや割れ目が多いが、割れ目挟在物は分布せず、硬さBと堅硬である。	26.95	27.20	26.95~27.20m: 割れ目間隔3~10cmで割れ目がやや多いが、割れ目の挟在物は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
84	27.05	27.20	(コアの形状欄) IVランク	27.05	27.20	(コアの形状欄) IIIランク	27.05	27.20	(コアの形状欄) IIIランク	-
85	27.20	28.48	コア長20cm以上が主体で、硬さBと堅硬。0~10° 割れ目主体で挟在物も分布しない。	-	-	-	27.20	28.48	27.20~28.48m: コア長20cm以上、傾斜0~10° の割れ目が主体で、挟在物は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
86	27.95	28.05	(コアの形状欄) IIランク	27.95	28.05	(コアの形状欄) IVランク	27.95	28.05	(コアの形状欄) IVランク	-
87	28.48	30.20	40~50° 割れ目主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが、砂状化などの劣化は伴わない。また粘土や粘土脈も挟在しない。 処々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.48	30.20	40~50° 割れ目主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化するが、砂状化などの劣化は伴わない。また粘土や粘土脈も挟在しない。 所々、マンガン鉱染で黒褐色化する。	28.48	30.20	28.48~30.20m: 傾斜40~50° の割れ目が主体で、ほぼ平行に分布する。一部割れ目や割れ目周辺は風化で褐色化し、コア表面はにぶい橙色を呈するが、砂状化などの劣化は伴わず、粘土や粘土脈も挟在しない。	記事内容がほぼ同じであるため、28.48m以深の記事を含めて記載した
88	28.66	30.20	(コアの形状欄) IIIランク	28.66	30.20	(コアの形状欄) IVランク	28.66	30.20	(コアの形状欄) IVランク	-
89	28.66	30.77	(岩級区分欄) CH	28.66	30.77	(岩級区分欄) CM	28.66	30.77	(岩級区分欄) CM	-
90	29.20	-	29.20m以深では、一部に40~50° とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も含み、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	-	-	-	29.20	-	29.20m以深では、一部に傾斜40~50° とこれらに斜交~直交する低密着割れ目も含み、ハンマーの打撃で10cm以下に分離することがある。	-
91	28.48	-	28.48m以深は風化でコア表面の一部はにぶい橙色を呈するが、砂状化などの劣化はなく硬さBで堅硬である。	-	-	-	-	-	-	上記の記事に含めたため記載しない
92	30.20	30.35	30~40° 割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	30.20	30.35	30~40° 割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	30.20	30.35	30.20~30.35m: 傾斜30~40° の割れ目が5~20mm間隔で平行に分布し、風化で砂状化を伴い、軟化する。粘土化や粘土脈は分布しない。	-
93	30.20	30.35	(コアの形状欄) IVランク	30.20	30.35	(コアの形状欄) Vランク	30.20	30.35	(コアの形状欄) Vランク	-
94	30.35	30.77	硬さBで堅硬。割れ目少なく、20~40° 主体。割れ目には挟在物は分布しない。	30.35	30.77	硬さBで堅硬。30.57m以深は割れ目少なく、20~40° 主体。割れ目には挟在物は分布しない。	30.35	30.77	30.57~30.77m: 傾斜20~40° の割れ目が分布するが、割れ目は少ない。割れ目には挟在物は分布しない。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない 割れ目が少なくなる区間のみ記載に変更した
95	30.35	30.57	(コアの形状欄) IIIランク	30.35	30.57	(コアの形状欄) IVランク	30.35	30.57	(コアの形状欄) IVランク	-
96	30.77	31.57	風化でやや軟化し、硬さDとなる。30~50° 割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50° 割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も31.40~31.90mを中心に分布する。割れ目ごとに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。	30.77	31.57	風化でやや軟化し、硬さDとなる。30~50° 割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50° 割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目ごとに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。	30.77	31.57	30.77~31.57m: 風化でやや軟化する。傾斜30~50° の割れ目と一部でこれらに斜交~直交する30~50° の割れ目も分布する。また、同角の低密着割れ目も31.40~31.57mに多く分布する。割れ目ごとに薄く砂状化することが多いが、粘土化部や粘土脈の分布は少ない。	-
97	31.06	31.06	50°、幅1~2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した数箇な粘土脈が分布。	31.06	31.06	50°、幅1~2mmに風化で黄褐色(10YR 5/6)化した軟質な粘土脈が分布。	31.06	31.06	31.06m: 傾斜50° で幅1~2mmの風化して軟質な黄褐色粘土脈を挟む。	-
98	31.25	31.40	(コアの形状欄) Vランク (コアの硬さ欄) Dランク	31.25	31.40	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Oランク	31.25	31.40	(コアの形状欄) IVランク (コアの硬さ欄) Oランク	-
99	31.42	31.52	31.42m・35°、31.52m・45° の各割れ目下盤側に12m、30mmが砂状化する。	31.42	31.52	31.42m・35°、31.52m・45° の各割れ目下盤側に幅12mm、幅30mmが砂状化する。	31.42	31.52	31.42m・35°、31.52m・45° の各割れ目の下盤側は幅12mm、幅30mmで砂状化する。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名: H24-D1-5

No.	コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)
	上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容	
			記事 コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			記事 追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>				
100	31.44	31.44	40° 割れ目の下盤側10~20mmマンガングル染で黒褐色化。	31.44	31.44	40° 割れ目の下盤側幅10~20mmマンガングル染で黒褐色化。	31.44	31.44	31.44m: 傾斜40° の割れ目の下盤側幅10~20mmがマンガングル染で黒褐色化する。	-
101	31.57	32.68	風化は弱くなり、硬さC主体。一部で硬さBの堅硬部も含む。30~50° 割れ目主体。	-	-	-	31.57	32.68	31.57~32.68m: 傾斜30~50° の割れ目を主体とする。	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
102	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Cランク	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク	31.97	32.09	(コアの硬さ欄)Bランク	-
103	32.14	32.14	50° 割れ目は2~4mm砂状化~φ2~3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土脈は分布しない。	32.14	32.14	50° 割れ目は幅2~4mm砂状化~φ2~3mmに細片化するが、これ以外では砂状化なし。また、粘土化部や粘土脈は分布しない。	32.14	32.14	32.14m: 傾斜50° の割れ目沿いに幅2~4mmが砂状化~径2~3mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。	-
104	32.68	32.76	上下端を45° 割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの明黄褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	32.68	32.76	上下端を45° 割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの明黄褐色(10YR 7/6)軟弱粘土を伴うが、粘土は脈としての連続性はない。	32.68	32.76	32.68~32.76m: 上下端を傾斜45° の割れ目で囲まれ、風化で砂状化する。上端は一部で幅4mmの軟弱な明黄褐色粘土を伴うが、粘土は連続しない。	-
105	32.76	33.96	硬さBと堅硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40~70° が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40° も分布する。また、同角の低密着割れ目も33.40~33.60mを中心に分布する。	32.76	33.96	硬さBと堅硬であるが、割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。割れ目は40~70° が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40° も分布する。また、同角の低密着割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。	32.76	33.96	32.76~33.96m: 割れ目が多く、一部で砂状化部を挟む。傾斜40~70° の割れ目が主体で、一部にこれに斜交~直交する10~40° の割れ目も分布する。また、同傾斜の低密着割れ目も33.40~33.60mに多く分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
106	33.80	33.80	50° はせん断性割れ目で、交差する25° 割れ目を切っている(変位量15mm右ズレ)。	33.80	33.80	50° のせん断性割れ目は、交差する25° 割れ目を止めている。切っている(変位量15mm右ズレ)。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	33.80	33.80	33.80m: 傾斜50° の割れ目は、交差する傾斜25° の割れ目を止めている。割れ目に挟在物は認められない。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	-
107	33.86	33.86	25° 幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続。	-	-	-	33.86	33.86	33.86m: 傾斜25° で幅0.5mmの石英脈が母岩に密着して連続する。	-
108	33.96	33.96	55° 割れ目上盤側幅10~20mm軽微なマンガングル染受け、下盤側はやや軟質化(D)	33.96	33.96	55° 割れ目上盤側幅10~20mm軽微なマンガングル染受け、下盤側はやや軟質化(D)	33.96	33.96	33.96m: 傾斜55° の割れ目の上盤側は幅10~20mmで弱くマンガングル染を受け、下盤側はやや軟質化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
109	33.96	36.00	35.08m以浅は風化で割れ目の多くは割れ目ぞいに砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈をはさむことが多い。35.08m以浅の割れ目は一部消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20~40° が主体で、これらに斜交する40~70° 割れ目も分布する。35.05m~50° 幅4mmの軟弱な明赤灰(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	33.96	35.08	35.08m以浅は風化で割れ目の多くは割れ目沿いに砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白色~明黄褐色(10YR 6/6)の粘土脈を挟むことが多い。35.08m以浅の割れ目は一部消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留している。20~40° が主体で、これらに斜交する40~70° 割れ目も分布する。35.05m~50° 幅4mmの軟弱な明赤灰色(2.5YR 7/2)粘土脈が分布する。	33.96	35.08	33.96~35.08m: 風化で、多くの割れ目沿いは砂状化し、幅1mm前後の軟弱な白~明黄褐色の粘土脈を挟むことが多い。一部の割れ目は消滅しかかり、不明瞭であるが、大半は明瞭に残留する。傾斜20~40° の割れ目が主体で、これらに斜交する40~70° の割れ目も分布する。35.05mに傾斜50° で幅4mmの軟弱な明赤灰色の粘土脈を挟む。	-
110	35.00	35.08	(変質欄)2ランク	35.00	35.08	(変質欄)3ランク	35.00	35.08	(変質欄)3ランク	-
111	35.08	-	35.08m以深は、風化は弱くなり、硬さC主体であるが、割れ目の多くは砂状化したり、φ5~10mmに細片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。10~40° 割れ目と、これらに斜交する40~80° 割れ目からなり同角の低密着割れ目も多く分布する。	35.08	36.00	36.08m以深は、風化は弱くなり、硬さC主体であるが、割れ目の多くは砂状化したり、φ5~10mmに細片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。10~40° 割れ目と、これらに斜交する40~80° 割れ目からなり同角の低密着割れ目も多く分布する。	35.08	36.00	35.08~36.00m: 割れ目の多くは砂状化したり、径5~10mmに細片化するが、粘土化部や粘土脈は分布しない。傾斜10~40° の割れ目と、これらに斜交する40~80° の割れ目からなり、同傾斜の低密着割れ目も多く分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
112	35.25	35.25	50° 割れ目ぞい幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)、φ0.1mm程度と微細な金属鉱物が多数晶出している。	35.25	35.25	50° 割れ目ぞい幅10mm淡緑灰色化(緑泥石化)、φ0.1mm程度と微細な金属鉱物が多数晶出している。	35.25	35.25	35.25m: 傾斜50° の割れ目沿いに幅10mmが緑泥石化により淡緑灰色化し、径0.1mm程度の微細な白雲母が多数晶出する。	-
113	35.78	35.90	割れ目~低密着割れ目ぞい軽微にマンガングル染を受ける。	35.78	35.90	割れ目~低密着割れ目沿い軽微にマンガングル染を受ける。	35.78	35.90	35.78~35.90m: 割れ目や低密着割れ目沿いに弱くマンガングル染を受ける。	-

コア観察カード⇒報告書柱状図記載記事チェックシート(H24-D1-5)

孔名:H24-D1-5

コア観察カード			適正化すべき記事内容			報告書柱状図記事			コア観察カードの適正化すべき記事内容から記事を削除・変更・追記した理由 (コア観察カードからの変更点) (コア観察カードを適正化している場合は、それとの変更点)	
上端深度	下端深度	記事	上端深度	下端深度	記事 (変更箇所を朱書きで表示) (変更していないものは「-」で表示)	上端深度	下端深度	選定した記事内容		
		コア観察カードから正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>			追加変更した情報が正しく転記されているか? <input checked="" type="checkbox"/>					
114	35.97	35.97	60° はせん断性割れ目で、交差する55° 割れ目を切っている(変位量20mmの右ズレ)。厚さ2~3mmのφ1~2mm細片混りの黄褐色(10YR 5/6)粘土脈をはさむ。	35.97	35.97	60° のせん断性割れ目は、交差する55° 割れ目を止めている。切っている(変位量20mmの右ズレ)。厚さ2~3mmのφ1~2mm細片混りの黄褐色(10YR 5/6)粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	35.97	35.97	35.97m:傾斜60° の割れ目は、交差する傾斜55° の割れ目を止めている。幅2~3mmで径1~2mmの細片混りの黄褐色粘土脈を挟む。割れ目周辺の岩盤には原岩組織が認められ、系統的な割れ目も存在しない。	
115	36.00	36.70	(コアの形状欄)IVランク	36.00	36.70	(コアの形状欄)Vランク	36.00	36.70	(コアの形状欄)Vランク	
116	36.00	36.70	風化で軟化する硬さD主体である。割れ目ぞいやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが、36.50~36.70m間には幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は40~60° とこれらに交差する20~30° 割れ目、低密着割れ目が多いが、後者では消滅しかかっているものもある。	36.00	36.70	風化で軟化する硬さD主体である。割れ目ぞいやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが、36.50~36.60m間には幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は40~60° とこれらに交差する20~30° 割れ目、低密着割れ目が多いが、後者では消滅しかかっているものもある。	36.00	36.70	36.00~36.70m:割れ目ぞいやコア表面の一部が砂状化する。粘土化部や粘土脈の分布は少ないが、36.50~36.60m間には幅1~2mmの軟弱な白色粘土脈を多く挟む。割れ目は傾斜40~60° とこれらに交差する20~30° の割れ目や低密着割れ目が多いが、後者は消滅しかかっているものもある。	記事欄以外から読み取れる硬さや風化の情報は記載しない
117	36.70	37.17	(コアの形状欄)Vランク	36.70	37.17	(コアの形状欄)IVランク	36.70	37.17	(コアの形状欄)IVランク	
118	36.70	38.73	硬さCが主体であるが、一部で風化により軟化した硬さDも含んでいる。硬さD区間は、37.17~37.59mと38.61~38.71mで、前者は50~70° とこれらに斜交する20~30° 割れ目でφ10~30mmに岩片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。後者は、岩片自身は硬さCであるが、70° と20~40° 割れ目が交差し、φ10~20mm岩片に細片化している。硬さC区間では、60~70° 割れ目と、これらに斜交~直交する20~50° 割れ目が主体で割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈もはさまない。	36.70	38.71	硬さCが主体であるが、一部で風化により軟化した硬さDも含んでいる。硬さD区間は、37.17~37.59mと38.61~38.71mで、前者は50~70° とこれらに斜交する20~30° 割れ目でφ10~30mmに岩片化する。粘土化部や粘土脈は分布しない。38.61~38.71mは、岩片自身は硬さCであるが、70° と20~40° 割れ目が交差し、φ10~20mm岩片に細片化している。硬さC区間では、60~70° 割れ目と、これらに斜交~直交する20~50° 割れ目が主体で割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も挟まない。	36.70	38.71	36.70~38.71m:傾斜60~70° の割れ目と、これらに斜交~直交する20~50° の割れ目が主体で、割れ目ぞいの砂状化は殆んどなく、粘土脈も挟まない。ただし、一部で風化により軟化した、37.17~37.59m間は、傾斜50~70° とこれらに斜交する20~30° の割れ目で径10~30mmに岩片化する。38.61~38.71m間は、傾斜70° と20~40° の割れ目が交差し、径10~20mmの岩片に細片化する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
119	-	-	-	37.72	37.72	傾斜66°、幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリーブ色を呈する。	37.72	37.72	37.72m:傾斜66° で幅1mmの灰白色粘土を挟む。周辺は幅5mmで灰オリーブ色を呈する。	
120	37.72	38.50	(コアの形状欄)Vランク	37.72	38.50	(コアの形状欄)IVランク	37.72	38.50	(コアの形状欄)IVランク	
121	-	-	-	37.85	37.85	傾斜68° の割れ目ぞいに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。	37.85	37.85	37.85m:傾斜68° の割れ目ぞいに幅10mm以下で淡緑灰色を呈する。	
122	38.00	38.13	60~70° と30~50° 割れ目が交差し、φ10~40mmの硬さC、ないし、Bの岩片に砕けている。	-	-	-	38.00	38.13	38.00~38.13m:傾斜60~70° と30~50° の割れ目が交差し、径10~40mmの岩片状を呈する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
123	38.13	38.61	一部硬さBの硬質部も含み、60~70° 割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mm石英脈が平行に分布する。	38.13	38.71	一部硬さBの硬質部も含み、60~70° 割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mm石英脈が平行に分布する。	38.13	38.71	38.13~38.71m:一部に硬質部を含む。傾斜60~70° の割れ目や低密着割れ目、母岩に密着した幅1~2mmの石英脈が平行に分布する。	記事欄以外から読み取れる硬さの情報は記載しない
124	38.61	38.71	(コアの硬さ欄)Dランク (風化欄)δランク	38.61	38.71	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	38.61	38.71	(コアの硬さ欄)Cランク (風化欄)γランク	